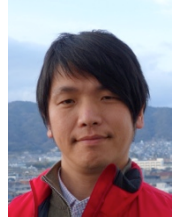


## 人の居方・居場所からの環境デザイン

氏名: 小林 健治 (こばやし けんじ)  
 学部: 理工学部  
 学科: 建築学科  
 職階: 准教授  
 連絡先: 下段、お問い合わせ先を参照ください。



### 研究の概要

ある場所に人が居ること、またそこで生まれる風景の総称である居方(いかた)という考え方をを用いて、公共空間、特に都市における公共空間について研究をします。多くの人が暮らす都市空間は、新しく、綺麗な場所が作りつづげられ、その場所を利用する個人の居心地の良さは良くなっていると感じる一方、そこに居る他者の存在がどんどん見過ごされているように感じます。ニュースにもなった、飛行機の機内での赤ちゃんの泣き声に関するクレームは、パブリックな公共空間での他者との関係性を拒絶する、ひとつの極端な例だと考えます。他者が居ることによってその場所の価値が高まる、ストーリー性をもてる、等という場所のデザイン、場所づくりをサポートします。

地域でのコミュニティ活動の重要性が改めて見直されつつある、ないしは既にそうした活動があちこちで実践されつつある状況において、建築に携わる立場から、場所づくりや地域活動のサポートを行い、地域に埋もれている価値や記録されていない価値を調査し、記録アウトプットし、発見する事でそうした活動が繋がっていくことをサポートします。具体的には、歴史的な街並を有する地域において、放っておいたら空き家問題などで朽ちていく建物を実測することで、現在の状況を明らかにするとともに、過去からの歴史的流れをふまえ、今後の地域の在るべき姿(vision)を地域の方々と共有する活動等が考えられます。なお、既に価値が見いだされている地域(e.g. 重要伝統的建造物群保存地区等)においても、常に変化しつつ在る社会状況に対応した提案を行います。



(上段)場所に人が居ること、その場所に新たなストーリー性が生じ、価値が生まれた例[Helsinki]。  
 (下段)空き店舗を利活用し、地域住民が集うようになったまちの居場所の事例[街角広場]。

<p><b>特長・効果</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートやヒアリング等の手法を用いて、ある人の満足度だけで地域や場所の価値をはかる事ではなく、人が居ることによって場所に付加価値や意味付けができる概念を構築し、実践すること。</li> <li>従来の量的な環境評価やデザインではなく、質的な点にフォーカスすること。</li> </ul>
<p><b>利用・用途</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査した内容をアウトプットしていく過程では、無料雑誌などの配布物を持ちいて、端的にヴィジュアルで表現すること。</li> <li>建築意匠設計実務の経験を活かしたさまざまな居場所の設計、デザインすること。</li> <li>地域のコミュニティ活動の立ち上げ、管理運営面でのサポート。</li> </ul>

### 【関連資料・特許・文献・参考事項】